浦田恵美子さん広報編集委員を離任
長年ご貢献いただきありがとうございました

「循環あいち」５１号（平成１６年４月２０日発行）より、広報編集委員五箇 始氏（(有）森田商店）から浦田恵美子氏（当時はマルサ（株)、現在は（株）コスモス・エコ研究所）に委員が変わり、以降１８年間在籍。

当時の委員の方は現在どなたもいらっしゃいません。浦田氏は令和３年度の広報編集委員の中で一番長く女性の委員として務められていました。

浦田氏が広報編集委員になられた５１号の「編集後記」の一文に、『諸先輩の努力と会員様のご協力により、歴史を重ねてきた「循環あいち」を引き継いだ新委員による編集も３作目となり、少しは手慣れたと思う間もなく、今回、７０ページ余りの大作に喧喧諤諤の編集会議となりました。それは行政施策に関する情報量が極めて多かったことによるものですが、昨今、業界を取り巻く環境の変化の大きさ、速さを考えれば、より確かな、素早い情報伝達が必要であり、今後とも同様の騒ぎは必至と思われます。……（原文のまま一部引用)』とありました。

５１号から委員になられた浦田氏は、“喧々諤々の編集会議”の中で、誌面を通して業界の急成長を目の当たりにされていましたが、同氏は既に廃棄物の再生利用への活動を始めており、里山への想いを実現するべく活動の範囲を広げられていました。

また、浦田氏は無類の読書家であることから、「循環あいち」の原稿校正時において、誤字脱字、的確な助詞の選択、文章内の文脈のずれにいち早く気づかれ指摘をされます。委員会において無くてはならない方なので、離任にあたり惜しまれる声が多くありました。

他には、女性部の立ち上げから参加され、活動の方向性や在り方についてなど、皆さんの意見をまとめられ女性会員から信頼を寄せられていました。

今後は広報編集委員、女性部からは離れられますが、これまで携われてきた協会の環境イベントにおけるクラフトワークの指導は、お手伝いをしていただけますので、環境教育の啓発活動には参加される予定です。

これまで長い期間、協会役員、広報編集委員、女性部員、環境学習のご指導等、大変お世話になりありがとうございました。

一言

わが国の環境基本法が公布・施行（平成５年１１月）される前年１０月に循環経済社会構築のため、(一社）廃棄物資源循環学会（旧：廃棄物学会）会長の寄本勝美氏を団長に調査団メンバーとして、環境先進国ドイツへ政策を学びに赴いた。

現地では各州及び民間団体、スーパー、園芸店、産業廃棄物最終処分場、中間処理場、小学校を訪問した。

スーパーでは、野菜果物はばら売り、自身で計量して新聞紙にくるみ、シールを貼る。シールには値段と容器「新聞紙」（紙）のエコマークが付いている。どの客もエコバッグ持参。

他の園芸店にもどんな小さな商品にも１個ずつエコマークが付いている。目から鱗の事ばかり。

中間処理場では廃棄プラスチックのビーズ原料工程、最終処分場の底辺までエレベーターで降りて点検可能である事を確認。

以降、僅か２６年でプラスチックがこれ程早く厄介者扱いされるとは誰が予測できただろうか。また一から廃棄物を科学的見地から見直す必要が来ている。

現在の「木くず・紙くず」は様々な製品へ再生されているが、早急に一般廃棄物と産業廃棄物として承認し、今後プラスチックの代替品目として又、「炭化技術」の開発が進むよう祈っている。

令和４年１月１７日 浦田恵美子

70号（平成21年1月発行）「新年号に寄せて」の掲載写真

69号（平成20年10月発行）、70号（平成21年1月発行）の表紙は、69号の初めての親子ツアー開催時にマルサ（株）にて、浦田氏方々にお手伝いしていただいた参加者の方の作品の数々。里山の環境づくりのきっかけとなった。